

# 人と動物の共通感染症



人獣共通感染症あるいは動物由来感染症、ズーノーシス(Zoonosis)とも呼ばれ、人も動物も発症するもの、人は発症しても動物は無症状のものがあります。病原体の種類としては、細菌、ウイルス、原虫、寄生虫など様々で、蚊やダニなどが媒介することもあります。

世界保健機関(WHO)が確認しているだけでも200種類以上あります。

## 問題となる背景

交通手段の目覚ましい発展による人と物の移動、人口の都市への集中、開発による自然環境の変化、野生動物のペット化等、人間を取りまく社会環境や自然環境の変化と行動の多様化が背景にあります。

そのような状況において、新型コロナウイルス感染症をはじめとする未知の感染症(新興感染症)や一度収まったのに再び流行する感染症(再興感染症)が発生しています。

このような感染症へ対処していくために、人、動物、環境の健康に関わる者が連携して取り組む「ワンヘルス (One Health)」という考え方が重要視されています。

私たち人類はこの地球上で多くの生物と共存している事実を忘れてはならないのです。

## ◇ 感染しないために気を付けること



- 同じ箸や口移しで食べ物を与えるような過剰なふれあいはやめましょう。
- ペットにふれた後は必ず手を洗いましょう。
- ペットの体や身の回りは常に清潔にしましょう。
- ペットの排泄物はすぐに片づけましょう。
- 野生動物のペット飼育や野外での野生動物との接触は避けましょう。
- 室内で鳥を飼育する時は、換気を心がけましょう。
- 餌として生肉を与えることはやめましょう。



## 飼い犬への狂犬病予防注射

日本では、狂犬病予防法で、犬の飼い主に、犬の自治体への登録と毎年の狂犬病予防注射の実施が義務付けられています。犬を飼う場合には、必ず登録と毎年の予防注射をしましょう。

狂犬病は、主に犬に咬まれて感染し、日本でも多くの人の命を奪った感染症です。1957年を最後に人、動物ともに国内感染はありません。2020年には、フィリピンで犬に咬まれて感染した人が、日本入国後に発症、死亡した輸入感染症例の報告がありました。

発症するとほぼ100%死亡します。現在も世界のほとんどの地域で発生し、年間約6万人が亡くなっています。外国から侵入してくる危険性は常にあると言えます。

